

粕谷理事、石澤教授

カンホジア国王に拝謁

アンコール遺跡調査に高い評価

十一月二十四日、カンホジア王国ノロドム・シハヌーク国王陛下に、本学を代表して粕谷友介総務担当理事、石澤良昭アジア人材養成研究センター所長（写真下、左から二人目）、及び今川幸雄関東学園大学教授（元日本国大使）、岡田卓



国王と談笑する粕谷理事

也イオン株式会社名誉会長、神尾田恵同一%クラブ事務局長の五人が王宮において拝謁した。

本学アンコール遺跡国際調査団は二〇〇〇年から二年間にわたりアンコール・ワットから二百七十四体の廃仏を発掘した。世界文化遺産アンコール・ワットが世界に知られるようになって約百四十年になるが、こ



国王を囲んで

のような大量の仏像発掘は初めてであり、アンコール朝末期の歴史が塗り変えられるという世紀の大発見であった。

今回はそれらの仏像を収

蔵展示するための博物館建設の許可をお願いし、同時に本学アジア人材養成研究センター（本部）をシエムリアップに開設した旨を報告することが目的であった。陛下からは長年にわたる本学のカンホジアへの貢献に感謝するとの言葉があり、新博物館の名称を「シハヌーク・イオン博物館」とすることの許しを得た。

同日、フン・セン首相から博物館建設用地七千二百㎡が無償提供された。これまでイオンが森林公園として植樹した場所であり、博物館はイオンの援助を得て建設される。総床面積千三百八十六㎡で総工費は一億円となる予定。来年三月末に地鎮祭を行い、二〇〇五年十二月完成予定。

完成の暁には、二百七十四体の廃仏が展示される。落成式にはカンホジアの国宝であるこれらの仏像の返還式と、カンホジア側への博物館移管式が執り行なわれる予定。博物館建設はアンコール遺跡国際調査団の約二十年にわたる地道な活動が高く評価されたものである。